

【別紙様式 1】

令和 3 年度 東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書

※令和 2 年度の取組状況について記載してください。

1 基本単位

(1) 基本単位（原則として、教育研究上の基本組織）の名称と責任者

基本単位の名称
薬学部、岩渕好治（薬学部長）

(2) 基本単位に置かれた教育課程一覧（※上記（1）において基本単位を「教育課程」に設定している場合は記載不要）

教育課程
創薬科学科、薬学科

(3) 教育課程における評価の内容の根拠等

教育課程	評価の内容の根拠等
創薬科学科（全学教育科目、専門教育科目）	学生便覧、シラバス、期末試験（筆記試験、レポート等）、パフォーマンステスト（実務実習、卒業研究）、ポートフォリオ（実習科目）、日常の観察（卒業研究等）、東北大学薬学部規程（1972.5.24）、東北大学薬学部履修内規（2005.11.16）、薬学部専門教育科目の成績評価等に関する申し合せ（2006.3.3）、第5回東北大学の教育と学修成果に関する調査（2021.1.27-3.31）。
薬学科（全学教育科目、専門教育科目）	

2 「教育の質保証検証部会」からの精査結果への対応（必要に応じて行を増やして記載してください。）

事項（No.）	精査結果に対する今後の対応（予定を含む）
1	改訂したカリキュラムポリシーの見直しを、適時、検討する。
2	国公立大学 6 年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートを実施（2020 年 5 月）した。 就職先等からの意見聴取については、令和 3 年度実施予定として検討する。
3	学生と同窓会との懇談会を PDCA サイクル図に示した。

3 三つのポリシーについて

(1) 基本単位（教育課程）が設定する三つのポリシー

学位授与方針	<p><u>創薬科学科</u></p> <p>薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育および専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与します。</p> <p>(1)教養の涵養：専門の基礎となる自然科学分野のみならず幅広い教養を習得し、豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感をもち、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。</p> <p>(2)専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製する能力、および医薬品に関する基礎的な学問を学び創薬科学の発展に寄与しうる能力を有している。</p> <p>(3)国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力、および国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。</p> <p>(4)真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を備えている。</p> <p><u>薬学科</u></p> <p>薬学部薬学科では、卒業までに全学教育及び専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与します。</p> <p>(1)教養の涵養：薬学の基礎となる自然科学分野のみならず、幅広い教養を習得し豊かな人間性と倫理観を備えるとともに、地域・社会に貢献する使命感、優れたリーダーシップを発揮する能力を有している。</p> <p>(2)専門の修養：生体の仕組みと疾患の原因を理解し、有効かつ安全な医薬品を創製する能力及び薬の専門家として医療を実践する能力を有している。</p> <p>(3)国際感覚の鍛錬：総合的な英語力、コミュニケーション力及び国際感覚を習得し、成果を世界に発信する能力を有している。</p> <p>(4)真理の探究：化学物質と生命の関わりの中において真理を探究し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を備えている。</p>
教育課程方針	<p><u>創薬科学科</u></p> <p>1. 教育課程の編成の方針</p> <p>創薬科学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」および「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、展開教育科目、および研究者教育科目）および教職に関する科目から編成します。各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバスと、各科目および薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促します。</p> <p>2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針</p> <p>(1)教養の涵養：1年次および2年次において、基幹科目、展開科目（自然科学）、共通科目（外国語）、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。</p> <p>(2)専門の修養：1年次から4年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物学系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目および法規科目を講義、演習、実習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および医薬品の基礎に関する</p>

	<p>学問を体系的に学び、創薬科学の発展に寄与しうる人となる素養を身につける。</p> <p>(3)国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論1、薬学概論2、専門薬科学実習、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。</p> <p>(4)真理の探究：3年次後期から4年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探求し、新しい医薬品開発、および薬の適正使用に携わる研究、教育、衛生行政を支える研究心を身につける。</p> <p>3. 学習成果の評価の方針</p> <p>(1)科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。</p> <p>(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。</p> <p>(3)教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。</p> <p>薬学科</p> <p>1. 教育課程の編成の方針</p> <p>薬学科の教育課程は、ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」及び「真理の探究」の各学習目標を達成するため、全学教育科目、専門教育科目（基幹教育科目、発展教育科目、実務教育科目及び研究者教育科目）及び教職に関する科目から編成します。各科目で習得される知識、技能、態度及び能力を明示したシラバスと、各科目及び薬学教育モデルコアカリキュラムとの関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促します。</p> <p>2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針</p> <p>(1)教養の涵養：1年次および2年次において、基幹科目、展開科目（自然科学）、共通科目（外国語）、展開科目（人文科学、社会科学）を配置し、豊かな人間性と優れたリーダーシップを身につけるための教養を身につける。</p> <p>(2)専門の修養：1年次から6年次にカリキュラムマップに配置された、物理系科目、化学系科目、生物系科目、衛生系科目、薬理学系科目、薬剤学系科目、病態・薬物治療系科目、法規科目、薬学臨床科目を講義、演習、実習を通して、生体の仕組みと疾患の原因を理解し、疾患に対する有効かつ安全な医薬品の創製および薬物治療に関する基礎的な学問を体系的に学び、薬学の発展に寄与しうる人および薬の専門家として医療の中で貢献できる人となれる素養を身につける。</p> <p>(3)国際感覚の鍛錬：薬学総合科目（薬学概論1、薬学概論2、臨床コミュニケーション学、薬学英語、課題研究）を通して、高い英語の理解力のみならず国際的に発信し、コミュニケーションをはかるための総合的な英語力と国際感覚を身につける。</p> <p>(4)真理の探究：3年次後期から6年次に研究室配属となり、研究者教育科目を通して、化学物質と生命の関わりの中において真理を探求し、薬学研究、教育、衛生行政を支える研究心とともに、薬の適正使用をはかる医療人としての使命感を身につける。</p> <p>3. 学習成果の評価の方針</p> <p>(1)科目については、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。</p> <p>(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し、評価する。</p> <p>(3)教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。</p>
--	--

学生受入方針	<p>薬学とは物質と生命の関わりを調べて新しい薬を創り出し、その医療への適用により健康の維持・増進や病気の治療を通じて人類社会の発展に貢献しようとする学問です。</p> <p>薬学部では、有機化学と物理化学を基礎とする物質科学、生物化学と分子生物学を基礎とする生命科学、そして疾病的解析や薬物治療などから成る医療科学の3つを総合した教育と研究を行います。大学院での教育研究とあわせて、国際的な視野に立ち創薬科学の発展に寄与し得る人と、薬に関する高度な知識と倫理観を有し、適正な医薬品治療の実践と発展にリーダーシップを発揮し得る人を育成することを目的としています。</p> <p>知的探求心に溢れ、新しい薬の創製に関する研究・開発に強い興味をもつ人、あるいは薬の安全で最適な使用に強い意欲をもつ人、薬を通じて人類の健康増進に貢献したいという強い使命感に燃える人を求めています。</p> <p>AO入試Ⅲ期：</p> <p>学業成績が極めて優れ、かつ、東北大学で薬学を学ぶことに強い熱意を持ち、知的探究心に溢れ、創薬研究あるいは薬の専門家として医療の中で使命感を持ってリーダーシップを発揮できる人間性の豊かな人を求めています。大学入学共通テストの成績に加え、書類審査、面接試験によって、薬学・医療に関わる学問への関心、探究心、思考力、倫理観などを評価します。</p> <p>国際バカロレア入試：</p> <p>国際バカロレアのディプロマ・プログラムにおいて優秀な成績を修めた者で、薬学を学ぶことに強い熱意を持ち、知的探究心に溢れ、創薬研究あるいは医療の中で使命感を持ってリーダーシップを発揮できる人間性の豊かな人を求めています。書類審査、面接試験によって、薬学・医療に関わる学問への関心、探究心、思考力、倫理観などを評価します。</p>
--------	--

(2) ポリシーの整備・活用状況

観 点	根 抱 等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います）
1 教育課程方針における、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針の明示	教育課程方針では、①教育課程の編成の方針として、ディプロマポリシーに掲げた「教養の涵養」、「専門の修養」、「国際感覚の鍛錬」および「真理の探究」の各学習目標を達成するため、それぞれの学科に配置した科目を編成すること、そして各科目で習得される知識、技能、態度および能力を明示したシラバス、そして各科目の関係性をカリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促すことを明示している。②教育課程における教育・学習方法に関する方針として、4つの学習目標について、それぞれ教育・学習方法を明示している。③学習成果の評価の方針として、(1)科目については到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価すること、(2)卒業論文ならびに卒業時における資質に関して明確な基準を策定し評価すること、(3)教育課程を学生の評価も含めて組織的かつ定期的な評価を実施し常に改善を続けることとして明示している。これらは新入生オリエンテーション、学生便覧、ホームページ (http://www.pharm.tohoku.ac.jp/general/faculty_policy/) を通じて周知している。

2	学位授与方針と大学の目的との整合性	“豊かな教養と人間性を持ち、人間・社会や自然の事象に対して「科学する心」を持って知的探究を行うような行動力のある人材、国際的視野に立ち多様な分野で専門性を発揮して指導的・中核的役割を果たす人材を養成する”と整合した学位授与方針である。
3	教育課程方針と学位授与方針との整合性	学位授与方針においては教育理念に基づく4つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」を規定し、それを受け、教育課程方針において4つの学習目標を掲げ、これらの目標を達成できるようにカリキュラムを編成している。従って、教育課程方針と学位授与方針は整合性を有している。
4	教育課程の編成の体系性	創薬科学科においては1年次から4年次、薬学科においては1年次から6年次に開講する科目の体系性を4つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、それぞれの学科におけるカリキュラムマッピングとしてシラバスに提示している。
5	学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準か	学部教育の目的は、種々の病気に対する有効かつ安全な新規医薬品の創製とその薬物治療への応用に関する基礎教育を推進することにより、創薬科学の発展に寄与し得る人材と、薬の専門家として医療の一翼を担い得る人材を養成することとし、特に4年制の創薬科学科では、大学院でさらに学んで創薬科学の研究者・技術者になるための基礎を築くことを目指す。6年制の薬学科では、研究心あふれる高度薬剤師としての基盤形成を行っている。この目的を達成するための3ポリシーを設定した。学位授与方針の中で、学習成果の達成と学位授与との関係について明確とし、創薬科学科においては「薬学部創薬科学科では、卒業までに全学教育および専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（創薬科学）の学位を授与します。」、薬学科においては「薬学部薬学科では、卒業までに全学教育及び専門教育の履修を通して、教育理念に基づく以下の4つの目標を達成した学生に対し、学士（薬学）の学位を授与します。」としている。核となる4つの目標、すなわち教養の涵養、専門の修養、国際感覚の鍛錬、真理の探究を達成することは、それぞれの学位に相応しい水準である。
6	学位授与方針や教育課程方針に即した成績評価基準の策定及びそれを用いて厳格かつ客観的な成績評価や単位認定の実施	成績評価基準は薬学部履修内規に定められ、各科目の成績評価法はシラバスで学生に周知する。総括評価としての筆記試験は定期試験と追再試験とし、科目によりレポート等の成績を加味した総合評価を100点とし、60点以上取得した場合に合格とする。100点満点を配当とする評価を、段階的評価（AA、A、B、C、D）に読み替えることがあり、59点以下のDは成績を不可とする。実習科目など授業科目によっては、合格、不合格とすることがある。専門教育科目の再試験に合格したもののは成績の評価はCとする。教務係により各科目担当教員からの評価が集計され、学部教務委員会、薬学部教員会議、薬学部教授会の審議を経て単位認定が行われる。以上のとおり、成績評価基準に基づき厳格かつ客観的な成績評価および単位認定が実施されている。

7	学位授与方針に即した卒業又は修了の要件の策定	東北大学薬学部規程 20 条に創薬科学科卒業要件として、全学教育科目の授業科目の単位を 43 単位以上及び専門教育科目の単位を 100 単位（基幹教育科目 66 単位、展開教育科目 14 単位及び研究者教育科目 20 単位）以上修得しなければならないと定めている。また、同規定 21 条に薬学科卒業要件として、全学教育科目の授業科目の単位を 43 単位以上及び専門教育科目の単位を 160 単位（基幹教育科目 66 単位、発展教育科目 45 単位、実務教育科目 27 単位及び研究者教育科目 22 単位）以上修得しなければならないと定めている。これらの科目は、学位授与方針に定める 4 つの目標（教養の涵養、専門の涵養、国際感覚の鍛錬、真理の探究）に対応して系統的にカリキュラムマッピングされているものである。これより、学位授与方針に即した卒業要件が策定されている。
8	卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取による学位授与方針に即した学修成果の修得状況	卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取の方法として、従来の手紙等に加えてオンラインツール（例えばグーグルフォーム）を活用し、記名・無記名の方法によって実施することを検討した。令和 2 年度においては、国公立大学 6 年制薬学教育研究検討委員会と協力し、国公立大学における薬学教育研究の改善に向けて、教育効果、意識・意見を把握するためのアンケート調査を行い、実務実習の実施体制・方法の改善施策の検討を継続している。本学のアンケート回答は、卒業生 47 名、在校生 25 名から寄せられた。回答率向上に向けた検討は必要であるが、貴重な意見が聴取できたと考えている。また、高度教養教育・学生支援機構教育評価分析センターによる「教育に関する卒業・修了者調査」で聴取された内容から英語力の伸び・実力不足を感じていると回答した卒業生があったことから、4 年次の研究開始時に英語でのプレゼンテーションを設け、英語力を高める試みを開始した。
9	学生受入方針への「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方の明示	学生受入方針において、求める学生像を「知的探求心に溢れ、新しい薬の創製に関する研究・開発に強い興味をもつ人、あるいは薬の安全で最適な使用に強い意欲をもつ人、薬を通じて人類の健康増進に貢献したいという強い使命感に燃える人を求めています。」とし、そして入学者選抜の基本方針として求める学生像に沿った入学者選抜の基本方針を明示するとともに、AO 入試Ⅲ並びに国際バカロレア入試における方針を明示している。
10	学生受入方針に沿った、受入方法の採用、実施体制による公正な入学者選抜の実施	学生受入方針に沿って、一般選抜（前期 54 名）、AO 入試Ⅲ期（24 名）、国際バカロレア入試（若干名）、私費外国人留学生入試（若干名）を採用している。一般入学試験においては、センター試験と東北大学独自の試験により判定しているが、センター試験の配点に比して東北大学独自の

		<p>試験の配点を高く、暗記能力だけでなく、その応用力を評価している。AO入試Ⅲ期はセンター試験の成績と面接諮詢により選抜される。合格者の決定は、選任教授からなる選抜検討会議の議を経て、運営会議で最終決定される</p> <p>学部入学試験実施部は、学部長を責任者として、総括担当副責任者、総括担当副責任者補佐2名、問題冊子等担当副責任者、支援業務担当副責任者で構成する。</p>
11	学生受入方針に沿った学生の受入の検証、検証結果の入学者選抜の改善への利用	<p>教授懇談会において、学生の受入について点検・見直しを行うため、WGを設置した（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）。WGで、求める学生像や入試方法等について検討された受入方針の改定案を、学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。</p> <p>センター試験変更への対応としてAOⅢ期の実施方法・配点等について再検討していたが、センター試験から記述式がなくなったことから特に大きく変更しないこととした。新型コロナ対応として、本年度は予備面接員として教授の他、准教授3名も待機する体制とした。実施時期については当初2月8日としていたものを2月13日に変更することとした。AOⅢ期入学者と一般試験の合格者について入学後の成績を比較検討した結果、AOⅢ期試験が有効に働いていることを確認した。</p> <p>受験会場のコロナ対策として前期日程第1次選抜の足切り倍率について検討し、受験生間の距離を確保可能と判断されたことから変更しないこととした。</p> <p>国際バカロレア入試について実施方法等について検討し、[REDACTED]回答の正誤より、考え方、知識の広さ、意欲を評価できるよう試問となる選抜方法となるよう継続的に議論を続けることとした。さらにアドミッションポリシーに沿うことをより明確としながら、筆記試験の導入、小論文、英語の評価、実施時間なども検討することとした。</p> <p>学部教員会議において進級率・留年率を検討し、学生受入が適正であると判断した。</p>
12	実入学者数の入学定員に対する比率	令和2年度の定員80名に対して、一般選抜58名、AO入試Ⅲ期26名、私費外国人1名であり、充足率は106.25%である。

4 学生支援について

観 点	根 拠 等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います）
1 学生に対する、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援の状況	<p>学生相談担当教員（男女各1名）のほか、クラス担任や分野（指導）教員、教務委員長及び教務係で対応する。相談窓口等については学生便覧に掲載しており、オリエンテーション等でも周知している。</p> <p>特に令和2年度は新型コロナの影響で多くがオンライン授業となり、学生が大学に来られない状況が続いたため、ピアサポートや教員によりメンタル面にも注意しながらサポートを行った。</p> <p>例年、対面による入学者オリエンテーションを開催するが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためオンライン開催とし、薬学教育の全体のカリキュラムを俯瞰できるように説明するとともに、生活や進路、課外活動、経済面での援助制度についての情報提供を行った。これも例年行っている入学者オリエンテーションの終了後に、新入生を3～5名ずつ各研究室に分かれて、教員、学生、大学院生と交流を持つ機会を中止し、新入生サポート学生によるオンライン交流会とした。これもコロナ対応のため中止せざるを得なくなったが例年は新入生合宿を1泊2日で行い、学生間の親睦を深めるとともに2年生数名と学年担任、学部教務委員長、教務係長が参加し、生活、進路、課外活動、経済面での援助等に関する不安に対応している。令和2年度においては、9月末の定期試験後、改めて新入生オリエンテーションを感染症拡大防止に十分に配慮した上で3教室に学生を分け、対面方式により開催した。各教室には学年担任等を配置するとともに、オンラインで結び、リアルタイムの会とした。</p> <p>1セメスターに開講する「薬学概論1」は、各研究室の教授が担当し、薬学部で行われている研究概要や進路等について説明することによりキャリアパスを俯瞰できるような導入科目とし、個別の学生からの相談に対して助言した。</p> <p>3年次後期からの学科配属に際して、薬学科を志望する学生全員と面談し、薬学教育モデル・コアカリキュラムの意味、薬剤師国家試験に向けての意欲、卒業後の進路等の疑問・不安に対応した。</p> <p>学部通則第34条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページで周知する他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。</p>
2 留学生への生活支援等を行う体制及び生活支援の状況	主に分野（指導）教員、チューター及び教務係が連携しながら、奨学金等の情報提供、ユニバーシティハウスや民間アパートへの入居支援、在留資格更新等の手続支援を行っている。令和2年

		度については、新型コロナの影響で来日できていない学生もおり、授業料等の納付方法や COE の更新情報などきめ細かく支援等を行った。
3	障害のある学生その他特別な支援が必要な学生への生活支援等の体制及び生活支援の状況	教務係や教務委員会、相談員や担任などが全学の教務課や特別支援室などと連携を取り、逐一対応ができるようになっている。 担当する組織等：研究科教務委員会、学部教務委員会、学生支援委員会
4	学生に対する経済面での援助	上記の通り、学部通則第 34 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページでの周知、各学年のグーグルクラスルーム他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。これにより、令和 2 年度において、授業料免除者は、前後期延べ人数で 96 名（全面 56 名、半免 15 名、2/3 免除 20 名、1/3 免除 5 名）、学生支援機構奨学金受領者 102 名となっている。

5 教育・学生支援に関する施設設備について

観 点	根 抠 等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います）
教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備の整備状況	1～4 セメスターに行われる全学教育ならびに 1～3 セメスターの専門教育は川内北キャンパスで行われており、必要な施設・設備は適切に整備されている。専門科目の講義は主に青葉山地区の薬学研究科・薬学部の施設で行われる。薬学部 A 棟は昭和 44 年に、B 棟は昭和 47 年に建設され、平成 8～9 年に内部改修が行われた。平成 15 年に総合応用薬学研究棟（C 棟）が建設された。薬学部には、1 学年の学生を収容できる大講義室（156 席）、中講義室（104 席）、C 棟講義室（138 席）があり、さらに少人数教育として利用できる第 1 小講義室（48 席）、第 2 小講義室（32 席）、第一セミナー室（18 席）、C 棟セミナー室がある。その他、B 棟学生実習室、C 棟学生実習室、情報教育室、第 3 実習室（模擬薬局）、実験動物飼育管理施設、附属薬用植物園を設備する。卒業研究は、各分野で実施するが、各研究に必要な機器等は指導教員の個々が競争的資金を得て整備している。また中央機器室、生体分子解析室、ハイスループット・スクリーニング室、低温室等がある。 図書および学習資料は、川内北キャンパスにある東北大学附属図書館本館並びに青葉山キャンパスにある北青葉山図書館を主に利用している状況である。

2	施設・設備における安全性の配慮の状況	薬学研究科・薬学部安全衛生委員会委員（委員長は研究科長・事業場責任者、副委員長は環境管理委員長、委員として分子薬科学専攻長、医療薬学専攻長、生命薬科学専攻長、安全・衛生管理者、用度係長、産業医）が定期的に巡視・インタビューすることにより、施設・設備の状況を把握するとともに、必要に応じて改善点を指摘し、改善前後の状態・効果・評価結果をフィードバックすることにより、安全性の確保を行う体制と取り組んだ。
3	教育研究活動を展開する上で必要な I C T 環境の整備状況及び有効活用の状況	無線 LAN などの高速ネットワーク環境やクラウド環境、さらに Google Classroom や Google Meet 等を含めた I C T 環境・学習ツールを整備・浸透させ、全ての授業に対して、これらの環境・ツールを駆使したオンライン授業やオンデマンド授業、e ラーニングを利活用することで、どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。

6 基本単位における「教育研究活動の実施状況とその成果」の自己点検・評価について

実施時期	評価対象	評価方法 (授業評価、学生調査、学生懇談会等)	評価結果とそれへの対応（計画を含む）
2020.4-6	教育課程 (薬学部)	授業評価：授業アンケート（前年度）結果の集計・報告書の作成	学生から寄せられたフリーコメントに対する担当教員のコメント・改善計画案の内容を学部教務委員会で検討し、承認した。同資料を運営会議で確認した。次いで同資料を薬学部教員会議で確認した。承認された授業アンケート結果は、ホームページに掲載された。前年度の学生からの授業評価を継続的に授業の改善活動に利用している。
2020.7		授業評価：授業アンケート（前期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付	学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。
2020.9		後期時間割の提案、確認、作成	教務係から提案された後期時間割を各担当教員が確認した後、作成され、学部教務委員会、薬学部教員会議の議を経て定められた。

2020.12		一般社団法人薬学評価機構による薬学教育（6年制）第三者評価結果への対応のために、評価分析委員会・将来計画委員会等による自己点検・評価	機構の評価報告書で指摘された助言と改善すべき点の分析結果に基づいて議論を行うと共に、それぞれ具体的な改善計画を立てた。
2021.1		授業評価：授業アンケート（前期）依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付	学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を学部教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスマップに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。
2020.6.17	学習成果	教授懇談会	学習成果の評価方法等の見直しを行うため、WGを設置した。(WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長)
2020.7-10		WG・務委員会・研究科教務委員会	WGで検討された学習成果の評価方法等について学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。
2020.11		学部教授会、研究科教授会	WG、学部教務委員会、研究科教務委員会で検討された学習成果の評価方法等について審議、了承された。
2021.1-3		第5回東北大学の教育と学修成果に関する調査（2020年度の卒業生・修了者）オンライン調査	ディプロマポリシーに掲げる4つの要素「教養の涵養」、「専門の修養」、「真理の探究」、「国際感覚の鍛錬」に関する学生の自己評価の結果、教養の涵養では82.8%の学生が満足あるいはある程度満足しているとした。同様に専門の修養では93.2%、真理の探究では88.0%であり、学習成果は高いものと判断された。一方、国際感覚の鍛錬に関連して、留学生との関係の同回答として46.6%、海外留学プログラムでは20.6%、外国語での議論や発表をまったく経験しなかったとしたのが24.1%、留学生との遊びを全く経験しなかったのが37.9%、英語の運用能力がないとしたのが17.2%であった。学部教育においては、英語によるプレゼンテーション能力の向上に取り組んでいるところであり、優秀発表者を学生自身の投票により選び、学部長から表彰を受ける事業を行っているが、更なる工夫改善を検討することとした。
2020.4	施設設備	講義室におけるEduroam環境の整備	ICT環境の充実のため、大講義室とC棟講義室だけで運用しているEduroam環境をB棟講義室等でも使用可能とすることを教授懇談会で議論し、進める方針とした。

2020.8	学生支援	薬学科志望学生（3年次）との面談	20分間の面談を通じて、薬学科進学後の疑問・不安（薬学教育モデル・コアカリキュラムの意味、薬剤師国家試験に向けての意欲、卒業後の進路等）に対して個別に助言するとともに、面談概要を翌月の学部教務委員会（2020.9）および教授懇談会で情報共有し、必要に応じて継続的に面談を行うこととした。
2021.1-3		第5回東北大の教育と学修成果に関する調査（2020年度の卒業生・修了者）オンライン調査	学生生活を送る上で必要な経済的支援に対して39.6%が満足あるいはある程度満足していると回答であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが20.6%であった。心身共に健康な大学生活を送るための支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が48.3%であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが6.9%であった。履修相談等の支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が25.9%であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが10.4%であった。一方、63.8%が経験なしとの回答であった。社会活動やボランティアを行うための支援および進路選択や就職活動における支援に関しても経験なしとの回答がそれぞれ81.0%、62.1%であった。結果をさらに分析し、対応を検討する。
2020.6.17 2020.7-10 2021.1 2020.11 2021.2	学生受入	教授懇談会 WG・教務委員会・研究科教務委員会 学部教授会、研究科教授会	学生の受入について点検・見直しを行うため、WGを設置した。（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長） WGで、求める学生像や入試方法等について検討された受入方針の改定案を、学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。 WG、学部教務委員会、研究科教務委員会で検討された受入方針の改定案について審議、了承された。
2020.6-11	その他	3ポリシーの改定WG	学部教務委員長・創薬科学科長・薬学科長、および大学院教務委員長・分子薬科学専攻長・生命薬科学専攻長・医療薬学専攻長によるワーキンググループを編成し、3ポリシーの見直しおよび改定作業を行い、教授懇談会、教授会で審議、了承された。

7 ファカルティ・ディベロップメント(FD)・スタッフ・ディベロップメント(SD)の実施状況

FD・SDの別	実施時期	名称	主催	実施内容・方法	対象者	参加者数
FD	2020.9-12	ハラスメント防止対策講習会	薬学研究科・薬学部(ハラスメント防止対策委員会)	学生理解や学生支援の推進、教育に係わる倫理・ISTU	薬学研究科教職員	＊＊名
FD	2020.10-12	令和2年度情報セキュリティ・個人情報保護教育	本部	情報セキュリティ・個人情報保護教育・e-ラーニング	教職員	＊＊名
FD	2020.10-12	令和2年度研究費不正使用防止コンプライアンス教育	本部	研究費不正使用防止コンプライアンス教育・e-ラーニング	教職員	＊＊名
FD	2020.10	新型コロナE-learning	本部	新型コロナウイルス感染症の感染対策・e-ラーニング	教職員	＊＊名

8 特に整備をお願いしたい事項について

番号	事 項	整備の有無 (該当するものを○で囲んでください。)	活用状況 (学位便覧に掲載、オリエンテーションで説明等)
1	大講義室のバリアフリー化の充実	有 無 →有の場合、添付してください	
2	オンライン講義支援機器の充実化	有 無 →有の場合、添付してください	
3	講義室内機器の更新 講義室電源プラグ	有 無 →有の場合、添付してください	
4	薬用植物園の熊対策	有 無 →有の場合、添付してください	

【別紙様式 1】

令和 3 年度 東北大学における教育研究活動等の質保証に関する報告書

※令和 2 年度の取組状況について記載してください。

1 基本単位

(1) 基本単位（原則として、教育研究上の基本組織）の名称と責任者

基本単位の名称
薬学研究科、岩渕好治（薬学研究科長）

(2) 基本単位に置かれた教育課程一覧（※上記（1）において基本単位を「教育課程」に設定している場合は記載不要）

教育課程
前期 2 年の課程（分子薬科学専攻、生命薬科学専攻）、後期 3 年の課程（分子薬科学専攻、生命薬科学専攻）、博士課程（薬学履修課程、医療薬学専攻）

(3) 教育課程における評価の内容の根拠等

教育課程	評価の内容の根拠等
前期 2 年の課程	学生便覧、シラバス、期末試験（筆記試験、レポート等）、日常の観察（課題研究等）、学位審査、東北大学大学院薬学研究科規程（1961. 5. 23）、東北大学大学院薬学研究科履修内規（2005. 11. 16）、東北大学大学院薬学研究科における課程による学位論文審査に関する取扱内規（1962. 4. 1）、第 5 回東北大学の教育と学修成果に関する調査（2021. 1. 27-3. 31）。
後期 3 年の課程	
博士課程（薬学履修課程）	

2 「教育の質保証検証部会」からの精査結果への対応（必要に応じて行を増やして記載してください。）

事項（No.）	精査結果に対する今後の対応（予定を含む）
1	改訂したカリキュラムポリシーの見直しを、適時、検討する。
2	国公立大学 6 年制薬学教育研究検討委員会による在学生、卒業・修了者へのアンケートを実施（2020 年 5 月）した。 就職先等からの意見聴取については、令和 3 年度実施予定として検討する。
3	学生と同窓会との懇談会を PDCA サイクル図に示した。

3 三つのポリシーについて

(1) 基本単位（教育課程）が設定する三つのポリシー

学位授与方針	<p><u>分子薬科学専攻</u></p> <p>分子薬科学専攻博士課程前期2年の課程では、分子薬科学における幅広い学識を備え、医薬品開発における有機合成と分子解析および疾病的分子機構と医薬品の作用機序に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とします。</p> <p>分子薬科学専攻博士課程後期3年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に分子薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とします。</p> <p>それぞれ以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、優れた研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）の学位を授与します。</p> <p>[博士課程前期2年の課程 学習目標]</p> <p>(1) 教養の涵養</p> <ul style="list-style-type: none">・分子薬科学を中心として薬の専門家としての知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。 <p>(2) 専門の修養</p> <ul style="list-style-type: none">・分子薬科学を基盤とした医薬品開発に関する有機合成と分子解析に関する専門知識を持ち、実践できる。・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。 <p>(3) 真理の探究</p> <ul style="list-style-type: none">・高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。 <p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none">・研究者として国際的な発信ができる。 <p>[博士課程後期3年の課程 学習目標]</p> <p>(1) 教養の涵養</p> <ul style="list-style-type: none">・分子薬科学のみならず、薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。 <p>(2) 専門の修養</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品開発に関する有機合成と分子解析に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。 <p>(3) 真理の探究</p> <ul style="list-style-type: none">・高度な専門知識と技術を基にし、当該領域の課題を解決するための研究を企画・遂行できる。・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。・論理的な論文として完成できる。 <p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none">・研究者として国際的な活躍ができる。
--------	---

生命薬科学専攻

生命薬科学専攻博士課程前期2年の課程では、生命薬学における幅広い学識を備え、疾病の分子機構と医薬品の作用機序、医薬品開発に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とします。

生命薬科学専攻博士課程後期3年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に生命薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とします。

それぞれ以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）の学位を授与します。

[博士課程前期2年の課程 学習目標]

(1) 教養の涵養

- ・生命薬学を中心として、薬の専門家としての知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。

(2) 専門の修養

- ・生命薬学を基盤とした医薬品開発に関する専門知識を持ち、実践できる。
- ・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。

(3) 真理の探究

- ・高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。
- ・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。

(4) 国際感覚の鍛錬

- ・研究者として国際的な発信ができる。

[博士課程後期3年の課程 学習目標]

(1) 教養の涵養

- ・生命薬学のみならず、薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。

(2) 専門の修養

- ・医薬品開発に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。
- ・医薬品開発研究における倫理観、使命感を身につけている。

(3) 真理の探究

- ・高度な専門知識と技術を基にし、当該領域の課題を解決するための研究を企画・遂行できる。
- ・研究成果を発表し、論理的な議論ができる。
- ・論理的な論文として完成できる。

	<p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者として国際的な活躍ができる。 <p><u>医療薬学専攻</u></p> <p>高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画・遂行できる能力を修得させ、臨床開発研究・教育・医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成します。以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、学位論文ならびに研究者としての能力を持つと判断された学生に対して博士（薬学）の学位を授与します。</p> <p>[学習目標]</p> <p>(1) 教養の涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬の専門家としての幅広い知識を持つとともに、優れたリーダーシップを発揮できる。 <p>(2) 専門の修養</p> <ul style="list-style-type: none"> 医薬品の適正使用と薬物治療等に関する幅広く、かつ高度な専門知識を持ち、実践できる。 基礎研究・臨床研究、および医療に携わるための倫理観、使命感を身に附している。 <p>(3) 真理の探究</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な専門知識と技術を基にした研究を企画・遂行できる。 研究成果を発表し、論理的な議論ができる。 論理的な論文として完成できる <p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者、薬剤師として国際的な活躍ができる。
教育課程方針	<p><u>分子薬科学専攻</u></p> <p>1. 教育課程の編成方針</p> <p>薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成している。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。博士課程前期においては、専門分野にとらわれない分野横断的な学際領域を学べるカリキュラムを実施して、自己研鑽できる研究力量と国際性を持ち、医薬品開発に貢献できる研究者を養成します。また、博士課程後期においては、幅広い視野から自己の研究を位置づけ、自己の研究の成果と意義を国際的水準で議論し、論理的に研究を展開できる能力を養成する。</p> <p>修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。</p>

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

[博士課程前期 2 年の課程]

(1) 教養の涵養

- ・分子薬科学を中心とした当該領域の先駆者による講義
- ・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを發揮するための素養を身につける。

(2) 専門の修養

- ・医薬品開発における有機合成と分子解析、情報科学、創薬科学の研究技術に関する基盤的・先端的な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。

(3) 真理の探究

- ・医薬品開発における有機合成と分子解析に関する研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。

(4) 国際感覚の鍛錬

- ・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。

(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。

[博士課程後期 3 年の課程]

(1) 教養の涵養

- ・幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを発揮するための素養、問題解決能力を身につける。

(2) 専門の修養

- ・医薬品開発における有機合成と分子解析、情報科学、創薬科学の研究技術に関する先端的で高度な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、演習および課題研究により修得する。

(3) 真理の探究

- ・医薬品開発における分子薬科学研究に関する課題を発見し、主体的に研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。

(4) 国際感覚の鍛錬

- ・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。

(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。

3. 学習成果の評価の方針

(1) 科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。

(2) 学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。

(3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。

生命薬科学専攻

1. 教育課程の編成方針

薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成している。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。博士課程前期においては、専門分野にとらわれない分野横断的な学際領域を学べるカリキュラムを実施して、自己研鑽できる研究力量と国際性をもち、医薬品開発に貢献できる研究者を養成する。また、博士課程後期においては、幅広い視野から自己の研究を位置づけ、自己の研究の成果と意義を国際的水準で議論し、論理的に研究を展開できる能力を養成する。

修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップを可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

[博士課程前期 2 年の課程]

(1) 教養の涵養

・生命薬学を中心とした当該領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを發揮するための素養を身につける。

(2) 専門の修養

・生命薬学研究および創薬のための基盤的・先端的な専門知識と疾病に関わる生命科学、情報科学、創薬科学の研究技術に関する基盤的・先端的な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。

(3) 真理の探究

・医薬品開発における生命薬科学研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。

(4) 国際感覚の鍛錬

・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。

(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。

[博士課程後期 3 年の課程]

(1) 教養の涵養

・幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを發揮するための素養、課題解決能力を身につける。

(2) 専門の修養

・生命薬学研究および創薬のための基盤的・先端的な専門知識と疾病に関わる生命科学、情報科学、創薬科学の研究技術に関する先端的で高度な専門知識、ならびに研究者としての倫理観および使命感は、講義、演習および課題研究により修得する。

(3) 真理の探究

・医薬品開発における生命薬科学研究に関する課題を発見し、主体的に研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習

	<p>科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。</p> <p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。 <p>(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。</p> <p>3. 学習成果の評価の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。 (2) 学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。 (3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。
--	---

医療薬学専攻

1. 教育課程の編成方針

薬学研究科では薬学部での教育を引継ぎ、さらに発展させるカリキュラムを編成する。ディプロマポリシーで掲げた「教育の涵養」、「専門の涵養」、「真理の探究」、および「国際感覚の鍛錬」における学習目標を達成するために必要な講義科目、演習科目、実習科目および、課題研究等を適切に組み合わせた教育を実施する。さらに「腫瘍専門薬剤師養成コース」および「スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース」では、高度な専門薬剤師としての実践的能力を育成する。

修了時に到達すべき学習目標を学生が達成できるように、各科目で習得される知識、能力を明示したシラバスと、体系性を示した科目ナンバリング、カリキュラムマップで可視化し、体系的な講義、演習、実習による学習を促す。

2. 教育課程における教育・学習方法に関する方針

(1) 教養の涵養

- ・医療薬学を中心とした幅広い領域の先駆者による講義・セミナーを開催して、幅広い知識とリーダーシップを發揮するための素養、課題解決能力を身につける。

(2) 専門の修養

- ・医薬品の適正使用と薬物治療、臨床研究等に関する高度な専門知識、倫理観、および使命感は、研究科の教員だけでなく、現場の薬剤師、医師、医療従事者等による講義、演習により修得する。

- ・腫瘍専門薬剤師養成コースでは、腫瘍専門薬剤師としての高度な知識、技術を修得するため、大学病院等との連携のもと、講義、演習、実習科目を設定する。

- ・スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースでは、個別化医療を実践するために必要な知識・技術を身につけるための講義、演習、実習科目を設定する。

(3) 真理の探究

- ・薬に関する基礎研究ならびに臨床研究を企画、実践する能力、および論理的に議論する能力を身につけるために、演習科目、および課題研究を実施し、学位論文を作成する。

	<p>(4) 国際感覚の鍛錬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習科目、および課題研究を実施する過程において、英語能力、国際感覚を養う。 <p>(5) 研究者としての能力を判定するために、学位論文の提出、ならびに最終試験を課す。</p> <p>3. 学習成果の評価の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目については、到達度を確認できる成績評価基準を策定し、これに基づいて成績を評価する。 (2) 学位論文ならびに研究者としての能力に関して明確な基準を策定し、評価する。 (3) 教育課程を、学生の評価も含めて組織的、かつ定期的な評価を実施し、常に改善を続ける。
学生受入方針	<p>大学院薬学研究科が大学院志願者に求める学生像</p> <p>博士課程前期2年の課程では、学部教育で修得した基礎的知識・技術を、薬の創生から適正使用までの高度な知識と応用力へと発展させることができる薬学研究者・技術者を育成するために、物質科学や生命科学の高度な知識と技術を獲得したいという意欲を持つ人を求めます。</p> <p>博士課程後期3年の課程では、最先端の創薬科学研究、医療薬学研究を自らの力で推進できる能力をもつ優れた研究者を育成するために、医薬品の創製や疾病的分子機構の解明などに強い関心を持ち、将来は創薬科学領域でリーダーとして社会に貢献できる人を求めます。</p> <p>医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画・遂行できる能力をもち、臨床開発研究・教育・医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成するために、医療薬学を中心とする薬学の知識や技術を修得し、将来は薬学の専門家として医療の一翼を担い得る人を求めます。腫瘍専門薬剤師養成コースは、腫瘍領域で先導的役割を担う腫瘍専門薬剤師を目指す人を対象にしています。スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースは、チーム医療における薬剤の専門家として、高度な先進的薬学分析力をもとに主体的に薬物治療に参画する薬剤師を目指す人を求めます。</p> <p>大学院薬学研究科の入試方法</p> <p>博士課程前期2年の課程では、「一般選抜」、「推薦入試」及び「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、博士課程後期3年の課程では、「編入学試験」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、「一般選抜」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別選抜」の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行います。</p> <p>(博士課程前期2年の課程)</p> <p>一般選抜試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験を行い、特に専門的知識を重視して選抜します。</p> <p>推薦入試は、出身大学長の推薦に基づき、外部試験による英語力の確認と、論理的思考力を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。</p> <p>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。</p>

	<p>なお、入学前に、物質科学や生命科学に関する基礎的知識に加え、薬の創生から適正使用までの高度な知識、及び応用力を育むために必要な薬学全般における基礎的知識と技術、ならびに基本的な英語力を修得していることを希望します。</p> <p>(博士課程後期3年の課程)</p> <p>編入学試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。</p> <p>社会人特別選抜試験は、技術者、教員、研究者として勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する高度な専門知識、研究適性、及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。</p> <p>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究適性、研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。</p> <p>なお、入学前に、薬学領域、特に関連性のある専門科目において、取得した知識と技術を、薬の創生から適正使用までの高度な知識とそれらを研究に応用することができる能力、ならびに専門領域において国際的に活躍できる英語力を身につけていることを希望します。</p> <p>(医療薬学専攻博士課程(薬学履修課程))</p> <p>一般選抜試験は、出願書類の内容、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門知識を評価する筆記試験及び研究適性等を評価する口頭試問を行い、特に専門知識を重視して選抜します。</p> <p>社会人特別選抜試験は、原則として薬剤師の資格を有し、病院薬剤部等に1年以上勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する専門知識、研究適性及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。</p> <p>外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、英語力と薬学に関する専門知識、研究適性、及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。</p> <p>なお、入学前に、薬学領域において取得した知識と技術を、薬の適正使用へと発展させることができる能力、ならびに専門領域において国際的に活躍できる英語力を身につけていること、さらに薬剤師国家試験に合格していることを希望します。</p>
--	--

(2) ポリシーの整備・活用状況

	観 点	根 抱 等 (根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います)
1	教育課程方針における、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針の明示	分子薬科学専攻、生命薬科学専攻、医療薬学専攻において、それぞれ専攻毎に①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針（分子薬科学と生命薬科学専攻では博士課程前期と博士課程後期、医療薬学専攻）、③学習成果の評価の方針を明示している。 根拠：薬学研究科カリキュラムポリシー

2	学位授与方針と大学の目的との整合性	<p>分子薬科学専攻博士課程前期2年の課程では、分子薬科学における幅広い学識を備え、医薬品開発における有機合成と分子解析および疾病の分子機構と医薬品の作用機序に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とし、博士課程後期3年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に分子薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることを課程修了の要件とする。</p> <p>生命薬科学専攻博士課程前期2年の課程では、生命薬学における幅広い学識を備え、疾病的分子機構と医薬品の作用機序、医薬品開発に関する研究力量と高度な薬学の専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とし、博士課程後期3年の課程では、研究者として自立して活動できる専門的、先端的な研究能力を有し、国際的に生命薬科学研究を先導できる優れた能力を身につけていることが課程修了の要件とする。</p> <p>医療薬学専攻では、高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画・遂行できる能力を修得させ、臨床開発研究・教育・医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成します。以下の学習目標を達成し、所定の単位を取得するとともに、学位論文ならびに研究者としての能力を持つと判断された学生に対して博士（薬学）の学位を授与する。</p> <p>これらは、世界水準の研究を理解し、これに創造的知見を加えて新たな展開を遂行できる創造力豊かな研究者及び高度な専門的知識を持つ高度専門職業人を養成するとする大学の目的と整合している。</p>
3	教育課程方針と学位授与方針との整合性	<p>各専攻の学位授与方針においては教育理念に基づく4つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」を規定し、それを受け、教育課程方針において4つの学習目標を掲げ、これらの目標を達成できるようにカリキュラムを編成し、研究者としての能力を判定するため、学位論文の提出ならびに最終試験を課している。従って、教育課程方針と学位授与方針は整合性を有している。</p>
4	教育課程の編成の体系性	<p>分子薬科学専攻と生命薬科学専攻においては、博士課程前期2年の課程および博士課程後期3年の課程に開講する科目の体系性を4つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、それぞれの専攻におけるカリキュラムマッピングとしてシラバスに提示している。医療薬学専攻においては、医療薬学コース、腫瘍専門薬剤師養成コース、スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースそれぞれについて1年次から4年次に開講する科</p>

		目の体系性を4つの目標「教養の涵養」「専門の修養」「国際感覚の鍛錬」「真理の探究」ごとに定め、カリキュラムマッピングとしてシラバスに提示している。
5	学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準か	学位授与方針の中で、学習成果の達成と学位授与との関係について明確とし、4つの学習目標（教養の涵養、専門の修養、真理の探究、国際感覚の鍛錬）を達成し、所定の単位を取得とともに、優れた研究者としての能力を持つと判断された学生に対して修士（薬科学）、および博士（薬科学）、博士（薬学）の学位を授与することを明示している。核となる4つの目標、すなわち教養の涵養、専門の修養、国際感覚の鍛錬、真理の探究を達成し、学位論文の審査ならびに最終試験に合格することは、それぞれの学位に相応しい水準である。
6	学位授与方針や教育課程方針に即した成績評価基準の策定及びそれを用いて厳格かつ客観的な成績評価や単位認定の実施	成績評価基準は薬学研究科規程に定められ学生便覧により学生等に周知される。各科目の成績評価法はシラバスで学生に周知する。 第14条 授業科目の履修の認定は、試験による。 第15条 試験は、授業の終了した学期の終わりに行う。 第16条 試験を受けることのできる授業科目は、所定の手続きを経て履修した授業科目に限る。 第17条 病気その他やむを得ない理由により、試験を受けることができなかつた者に対しては、当該試験の終了後3日以内に願い出た場合に限り、追試験を行うことがある。 第18条 試験の結果合格と認め得ない場合でも、更に若干の日数をかけて指導を加えれば合格することができると認められる者に限り、不合格の決定を猶予し、再試験を行うことがある。 第19条 試験の成績は、100点満点とし、次の区分により評価する。ただし、授業科目によっては、合格、不合格とすることがある。AA 90点から100点まで。A 80点から89点まで。B 70点から79点まで。C 60点から69点まで。D 59点以下。2 前項による評価 AA、A、B、Cは合格とし、評価 Dは不合格とする。 教務係により各科目担当教員からの評価が集計され、大学院教務委員会、薬学研究科教員会議、薬学研究科教授会の審議を経て単位認定が行われる。以上のとおり、成績評価基準に基づき厳格かつ客観的な成績評価および単位認定が実施されている。 根拠：東北大学大学院薬学研究科規程
7	学位授与方針に即した卒業又は修了の要件の策定	修了の要件は、薬学研究科規程に定められ学生便覧により学生等に周知される。第24条において、修了要件とする単位数および学位論文の提出と最終審査について明記されている。第25条

		<p>に学位論文を提出する際の在学期間、第 26 条に最終試験を受けるための要件を明示する。学位論文及び最終試験の成績は、合格又は不合格の区分で評価され（第 27 条）、課程修了の認定は、研究科委員科の議を経て研究科長が行う（第 28 条）。</p> <p>所属する専攻の専門科目及び関連科目は、学位授与方針に定める 4 つの目標（教養の涵養、専門の涵養、国際感覚の鍛錬、真理の探究）に対応して系統的にカリキュラムマッピングされているものである。これより、学位授与方針に即した卒業要件が策定されている。</p> <p>根拠：東北大学大学院薬学研究科規程</p>
8	卒業（修了）時の学生からの意見聴取や就職先等からの意見聴取による学位授与方針に即した学修成果の修得状況	第 5 回東北大学の教育と学修成果に関する調査（博士前期課程、博士後期課程）の調査結果によれば、当大学院で学んだことに対する総合満足度は、大変満足と満足が、博士前期課程では 84.4%、博士後期課程では 91.0% であり、修了後の進路に対する満足度は、大変満足と満足が、博士前期課程では 84.4%、博士後期課程では 72.8% であった。したがって、修了生自身も、本大学院での教育目的が達成されていると判断している。
9	学生受入方針への「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方の明示	<p>学生受入方針において、求める学生像を博士課程前期 2 年の課程では「学部教育で修得した基礎的知識・技術を、薬の創生から適正使用までの高度な知識と応用力へと発展させることができる薬学研究者・技術者を育成するために、物質科学や生命科学の高度な知識と技術を獲得したいという意欲を持つ人を求めます。」、博士課程後期 3 年の課程では、「最先端の創薬科学研究、医療薬学研究を自らの力で推進できる能力をもつ優れた研究者を育成するために、医薬品の創製や疾患の分子機構の解明などに強い関心を持ち、将来は創薬科学領域でリーダーとして社会に貢献できる人を求めます。」、そして医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、「高度な専門薬剤師として専門知識と技能、臨床研究を企画・遂行できる能力をもち、臨床開発研究・教育・医療機関において将来リーダーとして、医薬品の臨床開発に貢献する研究者・薬剤師を育成するために、医療薬学を中心とする薬学の知識や技術を修得し、将来は薬学の専門家として医療の一翼を担い得る人を求めます。腫瘍専門薬剤師養成コースは、腫瘍領域で先導的役割を担う腫瘍専門薬剤師を目指す人を対象にしています。スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コースは、チーム医療における薬剤の専門家として、高度な先進的薬学分析力をもとに主体的に薬物治療に参画する薬剤師を目指す人を求めます。」と明示している。</p> <p>学生受入方針において、入学者選抜の基本方針を「博士課程前期 2 年の課程では、「一般選抜」、「推薦入試」及び「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、博士課程後期 3 年の課程では、「編</p>

	<p>入学試験」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別選抜」の枠を設け、医療薬学専攻博士課程（薬学履修課程）では、「一般選抜」、「社会人特別選抜」、「外国人留学生等特別選抜」の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行います。」とし、博士課程前期2年の課程においては、「一般選抜試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験を行い、特に専門的知識を重視して選抜します。推薦入試は、出身大学長の推薦に基づき、外部試験による英語力の確認と、論理的思考力を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門的知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。」、博士課程後期3年の課程においては、「編入学試験は、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。社会人特別選抜試験は、技術者、教員、研究者として勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する高度な専門知識、研究適性、及び研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する高度な専門知識を評価する筆記試験及び研究適性、研究計画と研究能力等を評価する口頭試問を行い、特に研究能力を重視して選抜します。」、医療薬学専攻博士課程においては「一般選抜試験は、出願書類の内容、外部試験による英語力の確認と、薬学に関する専門知識を評価する筆記試験及び研究適性等を評価する口頭試問を行い、特に専門知識を重視して選抜します。社会人特別選抜試験は、原則として薬剤師の資格を有し、病院薬剤部等に1年以上勤務し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、薬学に関する専門知識、研究適性及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。外国人留学生等特別選抜試験は、外国人留学生等を対象とし、英語力と薬学に関する専門知識、研究適性、及び研究計画と研究意欲等を評価する口頭試問を行い、特に研究意欲を重視して選抜します。」とそれぞれ明示している。</p>
10	<p>学生受入方針に沿った、受入方法の採用、実施体制による公正な入学者選抜の実施</p> <p>「実施体制」については、各学部・研究科の実施体制の表等を送付していただく 学生受入方針に沿って、博士課程前期2年の課程においては、募集人員54名として、入学を志望する専攻科目（分野）から第4志望までを選択して志願する。志願者は、事前に第1志望専攻科目（分野）の教授（教授不在の分野においては准教授等）に必ず問合せすることとしている。</p>

	<p>受け入れ先となる専攻科目（分野）は、分子薬科学専攻として医薬製造化学分野、分子設計化学分野、合成制御化学分野、反応制御化学分野、分子変換化学分野、医薬資源化学分野、界面物性化学分野、生物構造化学分野、分子動態解析学分野であり、生命薬科学分野として薬理学分野、臨床分析化学分野、分子細胞生化学分野、薬物送達学分野、衛生化学分野、代謝制御薬学分野、生命機能解析学分野、臨床薬学分野、がん化学療法薬学分野、生活習慣病治療薬学分野、病態分子薬学分野としている。入学者の選考方法、学力試験及び出願書類等を統合して行い、学力試験は英語（試験時間 60 分）及び専門科目（試験時間 120 分）によって行う。専門科目は、有機化学群（3 間）、物理・分析化学群（2 間）、生命科学（3 間）、医療薬科学群（2 間）の 10 間が出題され、5 間を選択して解答する。なお、志望する専攻科目（分野）によっては指定される教科がある。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。</p> <p>博士課程後期 3 年の課程においては、募集専攻を上記専攻科目（分野）とし募集人員若干名とする。志願者は、入学後の研究計画等について事前に入学を希望する当該分野の教授（教授不在の分野については准教授等）に必ず問い合わせることとしている。入学者の選考は、学力試験、研究発表（15 分）及び面接試問（5 分）の結果及び出願書類等を統合して行う。ただし、理科系研究科出身者については学力試験及び出願手続きにある英語のスコア提出が免除される。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。</p> <p>医療薬学専攻においては、募集専攻を上記専攻科目（分野）とし募集人員若干名とする。志願者は、入学後の研究計画等について事前に入学を希望する当該分野の教授（教授不在の分野については准教授等）に必ず問い合わせることとしている。入学者の選考は、学力試験の結果及び出願書類等を統合して行う。学力試験は、英語のスコア提出及び専門科目（90 分）となる。なお、社会人特別選抜・外国人留学生等特別選抜の入学者選考は、志願理由・研究計画の発表（5 分）と面接試問（10 分）の結果及び出願書類等を統合して行う。合格者の決定は、研究科委員会の議を経て研究科教授会で最終決定される。</p> <p>大学院入試は、研究科入試委員会（委員長：研究科長、副研究科長、研究科教務委員長、作題委員長、面接委員長、実施委員長）の下、作題委員会（委員長、作題班長 6 名）、面接委員会（委員長、基幹・協力講座の全教授）、実施委員会（委員長、作題委員長）の体制で公正に実施される。</p>	
11	学生受入方針に沿った学生の受入の検証、検証結果の入学者選抜の改善への利用	教授懇談会において、学生の受入について点検・見直しを行うため、WG を設置した（WG : 学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）。WG で、求める学生像や入試方法等について検討された受入方針の改

		<p>定案を、学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により英語の外部試験が中止となったため、大学院入試における英語のスコア提出について検討し、推薦入試の場合には特例としてスコア提出を求めないこととし、令和2年度に限り配点を小論文100点、専門の成績200点で評価することとした。一般入試については、TOEICの第251回試験まで認めることとして対応した。推薦入試の実施方法を検討し、3密を避ける対策とした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により入国できない外国人留学生のオンライン入試について検討し、特殊な状況下であるとして認めることとした。</p>												
12	実入学者数の入学定員に対する比率	<p>令和2年度における入学定員に対する比率は以下のとおりであった。</p> <table> <tbody> <tr> <td>前期2年の課程</td> <td>入学定員 54</td> <td>入学者数 56</td> <td>103.70%</td> </tr> <tr> <td>後期3年の課程</td> <td>入学定員 18</td> <td>入学者数 17</td> <td>94.44%</td> </tr> <tr> <td>薬学履修課程</td> <td>入学定員 4</td> <td>入学者数 3</td> <td>75.00%</td> </tr> </tbody> </table>	前期2年の課程	入学定員 54	入学者数 56	103.70%	後期3年の課程	入学定員 18	入学者数 17	94.44%	薬学履修課程	入学定員 4	入学者数 3	75.00%
前期2年の課程	入学定員 54	入学者数 56	103.70%											
後期3年の課程	入学定員 18	入学者数 17	94.44%											
薬学履修課程	入学定員 4	入学者数 3	75.00%											

4 学生支援について

	観 点	根 拠 等 (根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います)
1	学生に対する、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援の状況	<p>学生相談担当教員（男女各1名）のほか、分野（指導）教員、大学院教務委員長及び教務係で対応する。相談窓口等については学生便覧に掲載しており、オリエンテーション等でも周知している。</p> <p>例年、対面による入学者オリエンテーションを開催するが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためオンライン開催とし、全体のカリキュラムを俯瞰できるように説明するとともに、生活や進路、課外活動、経済面での援助制度についての情報提供を行った。</p> <p>大学院通則第43条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページで周知する他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。</p>
2	留学生への生活支援等を行う体制及び生活支援の状況	<p>主に分野（指導）教員、チューター及び教務係が連携しながら、奨学金等の情報提供、ユニバーシティハウスや民間アパートへの入居支援、在留資格更新等の手続支援を行っている。令和2年度については、新型コロナの影響で来日できていない学生もあり、授業料等の納付方法やCOEの更新情報などきめ細かく支援等を行った。</p>

3	障害のある学生その他特別な支援が必要な学生への生活支援等の体制及び生活支援の状況	教務係や大学院教務委員会、相談員や担任などが全学の教務課や特別支援室などと連携を取り、逐一対応ができるようになっている。 担当する組織等：研究科教務委員会、学部教務委員会、学生支援委員会
4	学生に対する経済面での援助	上記の通り、大学院通則第 43 条において授業料免除等を定め、東北大学学生生活案内、学生便覧でも周知している。学生の経済的支援に関して、授業料免除、日本学生支援機構等の奨学金制度についての情報は学生便覧およびホームページでの周知、各学年のグーグルクラスルーム他、教務係から学生に情報提供され、個別に支援を行っている。これにより、令和 2 年度において、授業料免除者は、前後期延べ人数で 83 名（全免 13 名、半免 11 名、2/3 免除 21 名、1/3 免除 38 名）、学生支援機構奨学金受領者 48 名であった。

5 教育・学生支援に関する施設設備について

観 点	根 拠 等（根拠等がない場合は、それぞれの状況について、簡潔に記載願います）
教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備の整備状況	<p>研究活動を行うために必要な施設・設備は、学生が配属された分野および中央機器室に適切に整備されている。講義は主に青葉山地区の薬学研究科・薬学部の施設で行われる。一部の講義については、星陵キャンパスあるいは青葉山コモンズで行われる。令和 2 年度についてはオンラインに変更して行われた。</p> <p>薬学部 A 棟は昭和 44 年に、B 棟は昭和 47 年に建設され、平成 8-9 年に内部改修が行われた。平成 15 年に総合応用薬学研究棟（C 棟）が建設された。薬学部には、1 学年の学生を収容できる大講義室（156 席）、中講義室（104 席）、C 棟講義室（138 席）があり、さらに少人数教育として利用できる第 1 小講義室（48 席）、第 2 小講義室（32 席）、第一セミナー室（18 席）、C 棟セミナー室がある。その他、B 棟学生実習室、C 棟学生実習室、情報教育室、第 3 実習室（模擬薬局）、実験動物飼育管理施設、附属薬用植物園を設備する。</p> <p>課題研究は、各分野で実施するが、各研究に必要な機器等は指導教員の個々が競争的資金を得て整備している。また中央機器室、生体分子解析室、ハイスループット・スクリーニング室、低温室等がある。</p> <p>図書および学習資料は、川内北キャンパスにある東北大学附属図書館本館並びに青葉山キャンパスにある北青葉山図書館を主に利用している状況である。</p>
施設・設備における安全性の配慮の状況	薬学研究科・薬学部安全衛生委員会委員（委員長は研究科長・事業場責任者、副委員長は環境管理委員長、委員として分子薬科学専攻長、医療薬学専攻長、生命薬科学専攻長、安全・衛生管

		理者、用度係長、産業医）が定期的に巡視・インタビューすることにより、施設・設備の状況を把握するとともに、必要に応じて改善点を指摘し、改善前後の状態・効果・評価結果をフィードバックすることにより、安全性の確保を行う体制とて取り組んだ。
3	教育研究活動を展開する上で必要なＩＣＴ環境の整備状況及び有効活用の状況	無線 LAN などの高速ネットワーク環境やクラウド環境、さらに Google Classroom や Google Meet 等を含めたＩＣＴ環境・学習ツールを整備・浸透させ、全ての授業に対して、これらの環境・ツールを駆使したオンライン授業やオンデマンド授業、e ラーニングを利活用することで、どのような状況下（コロナ禍など）においても、質の高い遠隔教育や、自立型の予習・復習を可能とする効率的な個別学習等の充実・確保に向けて取り組んだ。

6 基本単位における「教育研究活動の実施状況とその成果」の自己点検・評価について

実施時期	評価対象	評価方法 (授業評価、学生調査、学生懇談会等)	評価結果とそれへの対応（計画を含む）
2020.4-6 各セメスター終了時	教育課程 (薬学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価：授業アンケート（前年度）結果の集計・報告書の作成 ・授業評価：授業アンケート依頼、集計、授業アンケート結果を担当教員へ送付する。授業アンケート結果をもとに担当教員がコメント・改善計画を作成し教務へ送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生から寄せられたフリーコメントに対する担当教員のコメント・改善計画案の内容を大学院教務委員会で検討し、承認した。同資料を運営会議で確認した。次いで同資料を教員会議で確認した。承認された個々の授業担当者による授業評価に対する改善点をホームページで公開した。受講生数がないものの、授業アンケート結果から授業に対する意欲、理解度とも高かった。 ・学生に対する授業アンケートの項目や実施方法を大学院教務委員会で検討し、各科目のグーグルクラスルームに配置した専用のグーグルフォームを用いて実施することを教務係から科目担当教員に依頼した。学生からの回答は教務係が集計し、その結果を各担当教員に送付し、コメント・改善計画の作成を依頼した。担当教員の作成したコメント・改善計画は教務係に期限までに送付され集計された。
2020.6.17	学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教授懇談会 	学習成果の評価方法等の見直しを行うため、WG を設置した。（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）

2020.7-10		・WG・務委員会・研究科教務委員会	WGで検討された学習成果の評価方法等について学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。
2020.11		・学部教授会、研究科教授会	WG、学部教務委員会、研究科教務委員会で検討された学習成果の評価方法等について審議、了承された。
2021.1-3		・第5回東北大学の教育と学修成果に関する調査(2020年度の卒業生・修了者)オンライン調査	<p>・博士前期課程修了者に対する東北大学での学びに対する総合満足度において82.2%の学生が大変満足あるいは満足とした。修了後の進路に対する満足度においては84.4%で大変満足あるいは満足との回答であった。教職員からの教育・研究指導については86.2%の学生が満足しているあるいはある程度満足していると回答した。TAあるいはRAからの支援について、64.4%で満足しているあるいはある程度満足していると回答した一方で、22.2%においてあまり満足していないあるいは満足していないとあったことはより深い分析と対応が必要と思われる。海外留学制度に関して、77.8%の学生が経験なしと回答したことに関し、より機会が得られるような支援等の検討が必要である。</p> <p>・博士後期課程修了者に対する東北大学での学びに対する総合満足度において91.0%の学生が大変満足あるいは満足とした。修了後の進路に対する満足度においては72.8%で大変満足あるいは満足との回答であった。教職員からの教育・研究指導については92.7%の学生が満足しているあるいはある程度満足していると回答した。TAあるいはRAからの支援について、54.6%で満足しているあるいはある程度満足していると回答した一方で、経験なしとしたものが45.5%であった。海外留学制度に関して、72.7%の学生が経験なしと回答したことに関し、より機会が得られるような支援等の検討が必要である。</p>
2020.4	施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室におけるEduroam環境の整備 ・第5回東北大学の教育と学修成果に関する調査(2020年度の卒業生・修了者)オンライン調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の充実のため、大講義室とC棟講義室だけで運用しているEduroam環境をB棟講義室等でも使用可能とすることを教授懇談会で議論し、進める方針とした。 ・博士前期課程修了者に対する東北大学の設備・施設に関する学生の評価について、研究室の研究環境、施設・設備を満足しているあるいはある程度満足していると回答した学生は75.5%であった。使用している院生室の施設・設備については64.5%で満足しているあるいはある程度満足しているとの回答である一方で、28.9%の学生があまり満足していないあるいは満足していないとの回答であったことはより改善に向けた検討の必要性がある。研究科の施設・設備(図書室・実験室等)についても31.1%の学生があまり満足していないあるいは満足していないとしていることはより具体的な分析を

			<p>要するとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 博士後期課程修了者に対する東北大学の設備・施設に関する学生の評価について、研究室の研究環境、施設・設備を満足しているあるいはある程度満足していると回答した学生は 81.8%であった。使用している院生室の施設・設備については 72.8%で満足しているあるいはある程度満足しているとの回答であった。研究科の施設・設備（図書室・実験室等）については 63.7%の学生が満足しているあるいはある程度満足しているとの回答である一方で、18.2%の学生が経験なしとの回答であったことはより具体的な分析を要するとした。
2021.1-3	学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 第 5 回東北大学の教育と学修成果に関する調査（2020 年度の卒業生・修了者）オンライン調査 	<ul style="list-style-type: none"> 博士前期課程修了者に対する学生生活を送る上で必要な経済的支援に対して 40.0%が満足あるいはある程度満足していると回答であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが 24.4%であった。心身共に健康な大学生活を送るための支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が 28.8%であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが 31.1%であった。履修相談等の支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が 44.5%であった。一方、51.1%が経験なしとの回答であった。結果をさらに分析し、対応を検討する。 博士後期課程修了者に対する学生生活を送る上で必要な経済的支援に対して 63.7%が満足あるいはある程度満足していると回答であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが 18.2%であった。心身共に健康な大学生活を送るための支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が 45.5%であり、満足していないあるいはあまり満足していないとしたのが 27.3%であった。履修相談等の支援については、満足あるいはある程度満足しているとの回答が 36.4%であった。一方、54.5%が経験なしとの回答であった。結果をさらに分析し、対応を検討する。
2020.6.17	学生受入	<ul style="list-style-type: none"> 教授懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の受入について点検・見直しを行うため、WG を設置した。（WG：学部教務委員長、研究科教務委員長、創薬科学科長、薬学科長、分子薬科学専攻長、生命薬科学専攻長、医療薬学専攻長）
2020.7-10 2021.1		<ul style="list-style-type: none"> WG・教務委員会・研究科教務委員会 	<ul style="list-style-type: none"> WG で、求める学生像や入試方法等について検討された受入方針の改定案を、学部教務委員会、研究科教務委員会でさらに精査・検討を行った。
2020.7		部局評価（東北大学）	<ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度では、本研究科に在籍する大学院生は前期課程 122 人、後期課程（薬学履修課程含む）48 人の計 172 人となっており、後期課程の在籍者が若干少ない状況であったが、広報等により、令和 2 年度に実施した院試、進学者選考には多くの学生が出願し、令和 3 年度の 1 年次生は後期 3 年の課程

2020.11 2021.2		・学部教授会、研究科教授会	16名（入学定員18名）、薬学履修課程2名（入学定員4名）となる。 ・最先端の研究を行っている国内外の大学・研究機関の研究者、及び、製薬企業の研究者の講義を多く企画し、学位取得後のキャリアパスを理解する一助としている。 ・WG、学部教務委員会、研究科教務委員会で検討された受入方針の改定案について審議、了承された。
2020.6	その他 研究成果	薬学研究科紀要・学会賞受賞調査	本専攻に所属する大学院生の関わる論文発表、並びに学会賞等の受賞があり、十分な研究成果を挙げられていると判断される。
2020.6-11		3ポリシーの改定WG	学部教務委員長・創薬科学科長・薬学科長、および大学院教務委員長・分子薬科学専攻長・生命薬科学専攻長・医療薬学専攻長によるワーキンググループを編成し、3ポリシーの見直しおよび改定作業を行い、教授懇談会、教授会で審議、了承された。

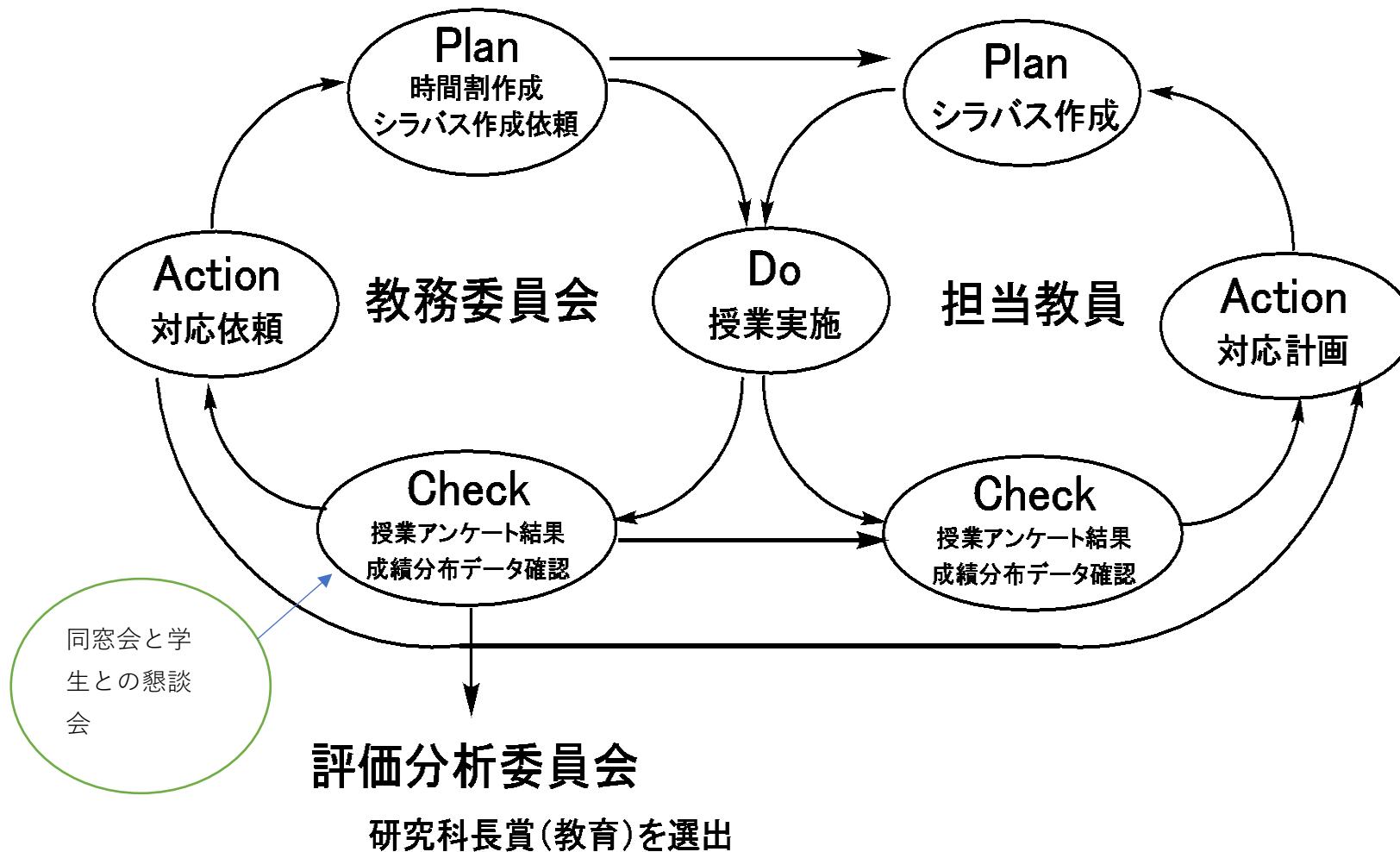
7 ファカルティ・ディベロップメント(FD)・スタッフ・ディベロップメント(SD)の実施状況

FD・SDの別	実施時期	名称	主催	実施内容・方法	対象者	参加者数
FD	2020.9-12	ハラスメント防止対策講習会	薬学研究科・薬学部（ハラスメント防止対策委員会）	学生理解や学生支援の推進、教育に係わる倫理・ISTU	薬学研究科教職員	＊＊名
FD	2020.10-12	令和2年度情報セキュリティ・個人情報保護教育	本部	情報セキュリティ・個人情報保護教育・e-ラーニング	教職員	＊＊名
FD	2020.10-12	令和2年度研究費不正使用防止コンプライアンス教育	本部	研究費不正使用防止コンプライアンス教育・e-ラーニング	教職員	＊＊名
FD	2020.10	新型コロナE-learning	本部	新型コロナウイルス感染症の感染対策・e-ラーニング	教職員	＊＊名

8 特に整備をお願いしたい事項について

番号	事 項	整備の有無 (該当するものを○で囲んでください。)	活用状況 (学位便覧に掲載、オリエンテーションで説明等)
1	大講義室のバリアフリー化の充実	有 無 →有の場合、添付してください	
2	オンライン講義支援機器の充実化	有 無 →有の場合、添付してください	
3	講義室内機器の更新 講義室電源プラグ	有 無 →有の場合、添付してください	
4	薬用植物園の熊対策	有 無 →有の場合、添付してください	

薬学部/薬学研究科教育科目に関するPDCAサイクル



業務スケジュール

	教務係	教員	教務委員会	評価分析委員会	薬学部	同窓会
12月	シラバス作成依頼					
1月			非常勤講師の決定			
2月		シラバス作成 シラバス校正依頼 シラバス校正				
3月	シラバス冊子体作成					
4月	シラバスを学生・教員へ配布 授業アンケート(前年度)結果の集計・報告書の作成					学生幹事選出依頼
6月			授業アンケート(前年度)結果の報告		授業アンケート(前年度)結果の報告ホームページへの掲載 教育に関するFDの検討	
	教育に関するFDの実施	教育に関するFDの実施				
7月	授業アンケート前期依頼 授業アンケート前期集計 授業アンケート結果を担当教員へ戻す	授業アンケート前期実施 授業アンケート結果をもとにコメントを記入し、必要に応じて対応作成		授業アンケート結果(前年度)等をもとに研究科長賞(教育)を選出	研究科長賞(教育)の報告	学生との懇談会
9月	講義担当教員の選出依頼 時間割の提案 時間割案作成	講義担当教員の選出 時間割修正依頼				
11月			担当教員・時間割の決定		担当教員・時間割の報告	
1月	授業アンケート後期依頼 授業アンケート後期集計 授業アンケート結果を担当教員へ戻す	授業アンケート後期実施 授業アンケート結果をもとにコメントを記入し、必要に応じて対応作成				